資料２

持続可能な地域コミュニティ形成モデル事業の概要

2019年（令和元年）11月23日
市民局まちづくり推進部
協働のまちづくり課

持続可能な地域コミュニティのあり方に関する有識者会議 提案書　2019年(平成31年)3月

今後の取組の方向性

２０１９年度モデル事業により取り組む

1　多様な主体が力を発揮できる地域づくりの検討
（みんなで取り組む地域づくりへの転換）

2　複雑化した地域自治組織のスリム化，各種団体役員のあり方や効率的な組織運営の検討
（地域組織・協議体の再構築，会議や情報伝達方法の研究）

3　行政から地域への依頼事項の抜本的な見直し
（地域への負担の軽減）

4　行政による地域支援体制の再構築・強化
（庁内連携，職員の意識改革・地域コミュニティ支援方法の確立）

持続可能な地域コミュニティ形成モデル事業

目的

人口減少・少子高齢社会にあっても持続可能な地域コミュニティの形成を実現するため，地域が行う持続可能な地域コミュニティの再構築に向けた取組に対して，市と政策アドバイザーが支援を行うことで，全市に展開できる実証モデルを示す。

内容

地域課題について幅広い世代の住民が集まり本音で話し合うことにより，担い手の発掘・育成や事業活動のスリム化等，持続可能な地域コミュニティの再構築に向けて具体的に取り組む。

具体の取組

地域の課題を解決する地域づくりの意義を住民が共有し，**幅広い世代の住民による話し合い（座談会）**をワークショップ形式で実施。１学区につき５回程度開催。
※福山市持続可能な地域コミュニティ形成に関する政策アドバイザー の
　櫻井常矢教授（高崎経済大学）による企画運営・進行等の支援

これまで一堂に会したことのない幅広い世代のメンバーで話し合っています。

実施地域参加状況

希望する地域のうち２学区で実施
・曙学区
　これまでの２回で，１０代～８０代の延べ１３５人が話し合い（座談会）に参加
・新市学区
　これまでの２回で，３０代～８０代の延べ６５人が話し合い（座談会）に参加

モデル事業　実施地域の紹介

区分		曙学区	新市学区
基本データ	市内での位置	中心部	周辺部（北部地域）
	世帯数	3,557世帯	2,497世帯
	人口	7,671人	5,936人
	高齢化率	18.5%	30.0%
	自治会加入率	58.3%	66.2%
地域づくりの特徴		2016年度から各種団体の合同役員会を開催し，団体行事の周知や問題点を共有し，活性化につなげる取組をスタート まちづくり推進委員会の事務局は公民館が担う	多様な主体が地域づくりに関わる「しんいちろう会」の活動 まちづくり推進委員会の事務局は住民が担う
モデル事業希望理由		現在の役員は長年されている方が多いため，後継者に課題。世代間交流によりまちづくりへの無関心層を少なくし，未来を見据えた取組をしたい。	まちづくり活動をけん引する強力なリーダーは存在するが，次世代を担う人材が育っていない。高齢化による地域課題への具体の対応を明確にしたい。

中部生涯学習センター

持続可能な地域コミュニティ形成モデル事業（情報提供シート）

学区名（　　曙　　）

1　モデル事業に立候補した理由

(1) 地域の課題

・まちづくり活動を各団体で実施しているが，役員を長年されている方が多く，後継者を探すことが今後難しい問題となる。
・人材育成が課題となっている。
・子ども会や女性会加入者が減少している。
・アパートなどの集合住宅に住んでいる若者が多いという地域性から，まちづくりに無関心な人が多い。

(2) どのような地域になっていきたいか

・以前から住んでいる人と他地域から移り住んだ人との交流が活発になっている地域
・世代間交流が盛んな地域
・「住んでよかった」「住んでみたい」「住み続けたい」と思えるようなまちにしたい。

2　これまでのワークショップで何をしてきたか

(1) ワークショップの内容について

第１回　自己紹介
　　櫻井先生の講話「これからの地域づくりをえがく」
　　意見交換　・曙の地域づくりといえば，これからの曙をえがく
　　・講話から気づいた・考えたこと
第２回　自己紹介
　　意見交換　・これまでの取組として何が足りなかったか
　　・これから何を大切にすべきか
　　・地域づくり心得〇〇か条について

3　地域からどういった声が届いているか

・話し合いが大切
・動員で参加してもやらされ感がなく，活発な意見交換ができていて，活力が見える。
・他地域からの移住者とのコミュニケーションが不足している。
・まずは挨拶すれば挨拶が返る状態にしたい。
・世代間での意見を交流できる場がなかった。こうした交流できる場が必要と感じた。
・参加者同士の話が，会が終了しても帰り際まで盛りあがっていた。

「曙学区 持続可能な地域コミュニティ形成モデル事業」始動！

曙学区の地域づくりについてみんなで話し合い，考える取組がスタートしました！

９月27日（金）１９時３０分から曙公民館で「第１回福山市持続可能な地域コミュニティ形成モデル事業（曙学区）」を座談会形式で開催し，曙学区の住民のみなさん７４人（１０代～８０代）がこれからの曙学区について考え，話し合いました。まず，福山市持続可能な地域コミュニティ形成に関する政策アドバイザーの櫻井常矢教授（高崎経済大学）から「これからの地域づくりをえがく」をテーマに講話があり，多様化・深刻化する地域の課題を解決することが「地域づくり」であり，「地域づくり」には話合いのプロセスが重要であるとの話に，みなさんは頷きながら熱心に聞き入っていました。

その後，グループに分かれての意見交換では，「曙学区の地域づくり」について，それぞれの思いを真剣に話し合い，時に笑い声も聞こえ，和やかな雰囲気の中で世代を超えた住民同士の交流ができました。閉会後も，名残り惜しく，座談会を振り返り，熱く語り合う参加者もいました。

今後の座談会では，みなさんの曙学区に対する前向きな思いが今後の地域づくりに繋がるよう，楽しく話合いを重ね，議論を深めていく予定です！

住民のみなさんは櫻井教授の助言を受けながら，参加者同士で語り合います♪
先生には引き続き曙学区の取組を支援していただきます！！

はじめましての人もみんなで意見交換♪

櫻井教授の講話から気づいたこと・考えたことは？
・地域課題を知り，解決することが「地域づくり」
・自分の意見（本音）が言える場の大切さ　など

曙学区の地域づくりといえば何を連想する？
・防災，見守り（安心，安全）・きずな
・担い手不足　・事業への参加　など

心配なこと・改善すべきこと・もっと地域の力が必要だと思うことは？
・いろんな世代の人と交流できる場　・防災対策
・団体の活動内容（子ども会，女性会など）
・役員の担い手不足，固定化の解消　など

「こんな曙学区にしたい！」前向きな思いを聞きました。（アンケートから）

♡年配の人と若い人が共に活躍できるまちにしたい。♡世代を超えて笑顔で助け合える地域にしたい。
♡人との関わりが活発な地域にしたい。♡若い人の考えを聞いて，お互いの意見を認め合えるまちにしたい。
♡「住んでよかった」「住んでみたい」「住みつづけたい」まちにしたい。♡安心・安全なまちにしたい。

真剣なまなざしでお互いの意見を聞き合います

曙「地域づくり便り✉」Vol.1　発行／2019年(令和元年)10月

【問合せ先】福山市 市民局 まちづくり推進部 協働のまちづくり課
〒720-0056　福山市本町1番35号　電話　084-928-1051

～第１回福山市持続可能な地域コミュニティ形成モデル事業（曙学区）開催概要～

北　部　地　域　振　興　課
（北部生涯学習センター）

持続可能な地域コミュニティ形成モデル事業（情報提供シート）

学区名（　　新市　　）

１　モデル事業に立候補した理由

(1) 地域の課題

・現在は，まちづくり活動を牽引する強力なリーダーが存在しているが，次の時代を担う人材が育っていない。
・かつて隆盛を極めた繊維産業を中心に発展してきた歴史と伝統のある学区であるが，近年景気の後退により，まち全体に元気がなくなってきている。
・「町内会未加入世帯の増加」「町内会活動への無関心」「耕作放棄地・空き家の増加」「各種団体役員等の高齢化」といった課題が地域環境の変化に伴い露呈している。
・生活の面では，高齢化により諸問題が発生し，住民は今後の生活に危機感を抱く者もいるが，具体的にどのような行動を起こすべきかが明確になっていない。

(2) どのような地域になっていきたいか

・「心豊かに」，そして「いきいきと元気に」暮らすことのできる「ふるさとしんいち」を１０年先，２０年先の未来につないでいくため，新市学区の今と未来を住民自らが考え，行動できるような地域

２　これまでのワークショップで何をしてきたか

(1) ワークショップの内容について

・第１回　自己紹介
　　櫻井先生の講話「これからの地域づくりをえがく」
　　意見交換　・新市学区の良いところ，地域が努力しているところ
　　・地域の暮らしを見渡して気になること，心配なこと
・第２回　自己紹介
　　意見交換　第１回目で出た意見を参考に，改めて意見交換
　　・地域の取組
　　・これから工夫できること
　　・こうなってほしいと考える理想的な状態

３　地域からどういった声が届いているか

・グループに分かれて自分の思いを気楽に伝えることができ，私がこのまちのことを少し考えることが，地域づくりにつながるんだという思いをした。
・家事中心に流れていた生活から離れて，こういう場で世代の違う地域のみんなと話ができ，これまで他人事であったことが自分のこととして考えられ，有意義であった。
・各世代ごとで様々な意見があり，考えさせられることが多くあった。各世代間で協力して新しい方向性を見つけたい。

「地域づくり座談会」を開催！

～新市学区のこれからの地域づくりをえがく～

９月２４日（火）新市老人福祉センターで，第１回新市学区持続可能な地域コミュニティ形成モデル事業「地域づくり座談会」を開催したところ，３０代～８０代の幅広い世代の新市学区住民の皆さんが参加されました。

始めに，福山市持続可能な地域コミュニティ形成に関する政策アドバイザーの櫻井常矢教授（高崎経済大学）による講話が行われました。

講話では，全国的に多様化・深刻化する地域課題が増え続けており，自分たちだけで解決することは難しくなっている。だからこそ，他の団体と連携・協働していく必要があることが伝えられました。

さらに，地域課題に取り組む上で大切なのは，課題を認識し，みんなで話し合い，解決するための手段として事業・活動を実施し，ふり返るという「プロセスとしての地域づくり」の流れを丁寧に繰り返し行うことであると学びました。

その後，グループで「新市学区のよいところ」「地域の暮らしを見渡して気になること，心配なこと」について話し合いました。参加者から出された「気になること，心配なこと」はさらに掘り下げられ，それに取り組んでいる団体はどこか？十分に取り組めているのか？意見を出し合い，これからの新市学区をえがくための話し合いをみんなで行いました。

しんいち！地域づくり通信　第1号　　発行／2019年(令和元年)10月
【問合せ先】福山市市民局まちづくり推進部協働のまちづくり課 TEL084－928－1051
～第１回福山市持続可能な地域コミュニティ形成モデル事業（新市学区）開催概要～

これからの新市学区をえがくため，みんなで話し合いました！！

新市町の祇園祭で使われる神輿をイメージして誕生した，新市のイメージキャラクター「**しんいちろう**」です。

今後の座談会では，住民の暮らしを支えるために本当に必要なことは何かを話し合い，実際に取り組んでいくための議論を重ねていく予定です。地域づくりの担い手が生き生きと活躍できる環境をつくり，幅広い世代の住民同士がつながり，暮らしを支えあえる新市学区をめざす今後の座談会にご期待ください。

参加者から届いた声をお届けします

- 難しい話し合いをするのだと構えて参加していたのですが，櫻井教授のお話がスーッと私の中に入ってき，グループに分かれての話し合いも気楽に参加することができました。このように，一人ひとり，このまちのことを少し考えることが，地域づくりにつながるのだと思いました。

- 家事育児中心の生活から離れて，地域の皆さんとお話しできたこと，他人事ではなく自分の事として世代の違う皆さんとともに考えられたこと，とても有意義でした。

- 各世代の様々な意見に深く考えさせられました。各世代間で協力して良い方向性が見つけられたらいいなと思いました。

地域づくりの目標・ビジョンをえがく

～とんな新市学区（事業・団体・関係・雰囲気など）にしたいのか～

第２回「地域づくり座談会」を10月18日（金）に開催したところ，新たな参加者も加わった総勢４７人の住民が新市公民館に集まり，新市学区のこれからの地域づくりについて熱心に話し合いました。

初回に続き，福山市持続可能な地域コミュニティ形成に関する政策アドバイザーの櫻井常矢教授（高崎経済大学）の進行により，まずは前回のふり返り。
「地域のくらしを支えることが地域づくり」であることをみんなで理解し，前回の座談会で話し合った「新市学区にある努力とは」の問いに対して，「地域のために行動する人がいる」，「祇園祭り」などの事業，「通学路，登下校の見守り」などの意見が出たことをおさらい。さらには参加者から出された「地域の気になること，心配なこと，改善すべきこと」を再確認する中で，『商業のまち新市』の現在の課題や担い手の必要性がみえてきました。

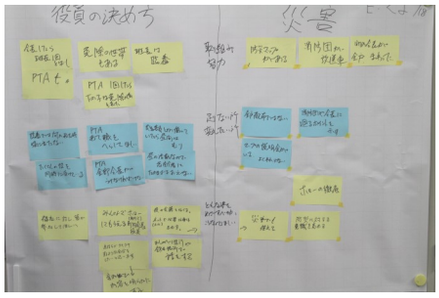
今回の話し合いでは，再度「地域の気になること」などを出し合うなかで，それに対して「地域でどんな取組がされているのか」，「これから工夫できることは何か」，「こうなってほしいと考える理想的な状態は何か」などを話し合いました。
あるグループでは，**人付き合いが希薄になっている現状**に対し，空き家を活用しての集いの場づくりや空き家の管理ができる会社があると活用が進むのではないかという意見が出されるなど，自由な発想で活発に議論。他にも，**団体の会長になると会合や行事に出席を求められることが多い現状**に対し，メールの活用などで会議の数を減らせないかという投げかけなど，率直な意見が交わされました。

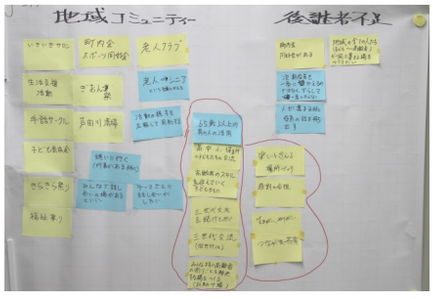
今後の座談会では，どんな地域にしたいのか，まちの雰囲気がどうあってほしいのかを意識し，新市の地域づくりの目標・ビジョンをえがいていきます。

しんいち！地域づくり通信　第2号　　発行／2019年（令和元年）11月
【問合せ先】福山市市民局まちづくり推進部協働のまちづくり課 TEL084－928－1051
～第２回福山市持続可能な地域コミュニティ形成モデル事業（新市学区）開催概要～

新市学区の現状を見つめ，将来について真剣に話し合っています！！

みんなで本音の話し合い





各グループで話し合われた２つのテーマ「新市学区の課題・気になること」

Ａ班	「人付き合い」「車社会」	Ｆ班	「都市の形骸化」「インフラの不整備」
Ｂ班	「子どもの安心・安全」「支え合い」	Ｇ班	「大雨時に水路があふれる」「安心・安全」
Ｃ班	「安心・安全」「地域活動」	Ｈ班	「人口減少」「自治会の活動」
Ｄ班	「過疎化」「通学路」	Ｉ班	「災害」「まちの衰退」
Ｅ班	「役員の決め方」「災害」	Ｊ班	「地域コミュニティ」「後継者不足」

話し合われたテーマの一例

テーマ：「役員の決め方」

今現在，地域にはどんな取り組みがあるか：

「班長は輪番制」「会長したら，班長１回とばし」「免除の世帯もある」「PTAの役員を１回したら，次は免除の頃もあった」

現状では足りないこと，もう変えるべきところ，こんな工夫はどうか：

「輪番制では何かあった時に役に立たない」「たくさんの役を同時に受けている」「PTAの充て職を減らしてほしい」「昼の活動は高齢者に頼まざるを得ない」

どんな姿をめざすか：

「福祉に対し，皆が参加してほしい」「みんなでフォローする町内会長・役員」「気持ちがウキウキするような会合をしたい」「役の会議をなくす。ネット（メール）で必要な事は伝える」